



御詔三五ノ仙序



公卿等ノ侍ノ連立ノ末ニあるハ何れニ在リト
詔ニ在リテ其ノ旨ニ依リテ其ノ事ヲ行フニ在リ
其ノ事ノ成ルニ至リテ其ノ功ヲ賞スニ在リ
其ノ功ノ著ルニ至リテ其ノ名ヲ著スニ在リ
其ノ名ノ著ルニ至リテ其ノ徳ヲ著スニ在リ
其ノ徳ノ著ルニ至リテ其ノ道ヲ著スニ在リ
其ノ道ノ著ルニ至リテ其ノ徳ヲ著スニ在リ
其ノ徳ノ著ルニ至リテ其ノ道ヲ著スニ在リ
其ノ道ノ著ルニ至リテ其ノ徳ヲ著スニ在リ

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a diary. The text is written vertically on the left page of an open book. The characters are fluid and connected, characteristic of a cursive hand. The page shows signs of age, including some staining and discoloration.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written vertically on the right page of an open book. The characters are fluid and connected, characteristic of a cursive hand. The page shows signs of age, including some staining and discoloration.

ねさみぬきこしやまきりしういゆる

雪き

月うきれいひのまらふおしるまを

牡丹

ひらきつとさあせさかゆいあき

牡丹

れしれ後しとさあせさかゆいあき

近之

りぬくまのうらさうりぬ月あ

土芳

えうあつとせとかきくねん

き

えらういぬぬ乃志のまきと

巾

うらういぬぬ乃志のまきと

巾

あうちとけとて唐へ成うと

え

あうちとけとて唐へ成うと

き

あうちとけとて唐へ成うと

き

あうちとけとて唐へ成うと

巾

あうちとけとて唐へ成うと

き

あうちとけとて唐へ成うと

え

えろくーた寝跡ささくは
宿し乃舟のたゆぐやぶ
同いぬいひいものさしあめい
くもいぬさく極るり
彼なりきんしんまき乃門
りやろるまろくは条川えれ
一あ乃舟のたふあささく
挽ちたしくよい連のき

き ち 乃 之 乃 仲 き 乃

あ乃きさけのあらしはたつる
あさくさるをくー乃をいれ
日のくれさつるものようあひ
さういぬあ乃あこしちり
るしあし争いしつ提く出る
橋寺いまぬさて乃く
友さくさけれは月さし
あふさるぬのさしせしし

乃 之 乃 乃 乃 乃 乃

孫きこゝにゆるよひこゝろ
 せりかゝらるゝ凡るはこゝろ
 富士くさる新しむるはく
 二階くちりうほ衣はそめる
 人志のよひこゝろもつとる
 ていんようくさるはこゝろ

三

大根柴乃香らに根を切られ
 花のありくほふをよきとも
 花乃あまぬ縁て人のこゝろぬ
 きりこゝろのこゝろわをぬ
 涼しめねよきまゝく月乃影
 鏡にまきあはれりれすふ

三

土芳

雪芝

近之

托巾

牡丹

芳

こねし〜と大工乃志まよふれ時
まよふ〜くぬくるめつきてみる
柳ある船うちこらひこころてし
法不根乃侍らえ後
みほ〜お女子の舞うちち〜
ほひ〜さ〜ち〜火舟〜
寝〜ぬ〜さ〜に〜海島〜し〜月の書
たてふあ〜う〜う〜とほける音

之 中 以 秀 之 中 以

とや〜とけ乃まをとす〜かて
納涼〜さ〜く〜小性〜あり
目のよははれを〜さ〜き〜
浦乃名やのむり〜う〜とする
入〜海〜ち〜え〜あ〜る〜ぬ〜さ〜お〜と〜ま
〜く〜し〜て〜ま〜入〜た〜か〜ち〜

乃 之 中 之 之 乃

月乃夜や新乃ちろつとちのま

近之

山屋と川ぬく懐こりそま

土芳

赤根とねと生る海辺後りれて

雪之

いつは〜や〜の條とぬれ〜

杜名

ま〜い〜こち乃小太う時うける

托巾

海とや〜り〜と〜ふい〜舟

之

おほ〜つ〜中〜ぬやれ〜と〜能〜て

舟

か〜入〜もの船〜と〜た〜を

之

こ〜か〜け〜乃〜ま〜よ〜と〜意〜の〜お〜る〜

舟

ら〜フ〜と〜い〜る〜ま〜ま〜ふ〜り〜

巾

ね〜勝〜仕〜な〜ぬ〜と〜お〜う〜と〜拵〜

之

す〜と〜と〜い〜る〜い〜に〜ゆ〜ふ〜を

舟

ふ〜い〜の〜れ〜を〜る〜川〜と〜拵〜

之

え〜な〜乃〜ま〜け〜と〜申〜物〜ま〜い〜ゆ〜は

舟

入月乃とけくきりうぬしのほ
き方く大れ月うひりく
花持く坊さうさいる書おんせ
喜れさ良借乃、舟借来する
砂文うかぶよせおく奴少と
むうさた乃ふて本貸うささ
陽乃方くちよつと火乃ある風長
女子御人くえんさぬ書れ同

中 之 巾 乃 是 舟 之 巾 乃 是 舟 之 巾

ぬりくともさのまな内輪中
何とさうく料理出来立
煮物乃あぬもの川ゆ
ねとさめくさけく海ちるさ
座丸くまき川おるに夜れお
七日とふと念佛もふい
栞乃あくくれく御乃月の乳
故麻かすもをいれきたるゆふ

中 乃 是 舟 之 巾 乃 是 舟 之 巾

うるさるるがーのうちうちいぬる
 けふのまほりー一屋うまうち
 ちよほよ運はるるれ人と侍
 もりー島乃たうぬさう
 さうふくとうりーとたれと
 ねくちれと風若あうーの
 ち 中 島 ち 芥 之

大抵日はまをぬま表七つめ九つめ同字やうと進方うた
 序ういふまゝとひたれかたういふうとあううとまか
 同字乃難あうとて面ううー又まぬま表しすとのうま
 鉄まれとてん今すうとまのまこと既うおとたれは
 けううとてん今すうとまのまこと既うおとたれは

ういーりおーいふれやま乃信
 けうう地ー鴨ううーおく
 ちよほよ運はるるれ人と侍
 もりー島乃たうぬさう
 さうふくとうりーとたれと
 ねくちれと風若あうーの
 ち 中 島 ち 芥 之

出入せふあすひとたけの垣乃ち
ねねまきくも乃ちうはを
あう北國の舟なるあなこひ
ちりこちく夏鷹やくちあ
ひ焼乃あつのはよかひのおあまひ
琴のあまをこよ上藤ちひさき
片眼めいこいさる後とよせそま
路よりなふあまをさるこ

き 中 月 夕 暮 月 暮

名月よ本は乃まきのううま
うはと作さるるあまを
一志ねう吹こちうは花乃凡
係生うあふと順流のふえ
まあありこ牛と出出て
あちこちとほかうはまは乃道
よく揺る舟のあま色はああ
内へさいれと泣うあけ

月 中 暮 月 夕 暮 月 暮

こころをぬくおとよの押法る
きりくちくさぬ顔あり
こころを操りたる庭の隅
おもむきありさうぬり
よの光乃死す縁ありぬ二人連
やうく九日乃暮る夕暮る
此處乃あつたれよはる月のせい
枳羅山くはさきとけりある
日 中 日 夕 夕 日 夕

天林乃神ありぬくも同へる
かきまておとよいひよる
勝ゆよる病人はた乃志はま
草履下く子供よろこぶ
まちりくは山くさくた乃山
ちまのちふえんまあ
日 夕 中 夕 日 夕

山へは風もあつて、お吹うぬ

牡若

場のゆりー一様さー一ぬー

土子方

録うらと先ちとさかうまゆり

雪芝

伯さすもえ乃うんぬもいぬ

近之

ふゆりーのさーいひ月乃ふ原

舟

あーうとさかーよと振て入る

久

ふふあへむもいれあつていふ

こ

さけ乃うらふ村さゆれ

ま

片招よらうて突せぬを

久

樹をさすいぬう

舟

らむゆりぬる浪の押借

ま

あーれぬらぬいぬ

え

君の君なるうらぬ

舟

うらぬあつていぬ

久

付けくくいぬさあさささささささ

雪之

あよ乃けくぬふ餅さあ乃中

一方平

喜凡の力出たれ所吹ぬくし

牡名

あろくふれめ何くあろくあ

燕子

あちくれさるく入くぬれけこ

土芳

丸ぬくあろく大るあいや

颯巻

化粧するもぬくくくくくくく

平

淡くくくくくくくくくくく

毛

味嚼る花さすくくくくくく

子

さくちりくくくくくくくく

あ

あぬくけくくくくくくく

巻

厚くくくくくくくくくく

并

位せくくくくくくくくく

毛

付くくくくくくくくくく

平

吹たつ〜し〜ぬふ〜さ〜
先〜ま〜祇〜寺持〜えり
あ〜よう伏〜ち〜く〜買〜
頼乃る縁〜は〜か〜
さ〜井乃子のせう合〜眷〜
ま履か〜お〜丸煮乃ま〜
本る庵と回〜石塔立〜
舟〜〜と〜と〜

両代〜うは〜く〜乃〜
は〜〜〜人〜
息杖ていら〜ま〜花乃葉
お城乃ち被〜ん〜
海〜は〜ま〜も〜
あおとふ〜えをぬ〜
大方〜月よ〜秋乃時〜
神々さ〜る〜る〜

...

...

桐乃木のえいこをぬいこ枝なる
 坊根のぬいこをいりふこ
 大けてあふ深子乃深の火吹井
 屋根うきぬれちるこちぬれ
 伝ふもぬ日乃もよこぬころ
 梅乃をぬいこ一盛る青柳

年 巻 糸 子 走 年

一本れえいこをぬいこ花えう那
 ぬいこをぬいこ一糸を入一晩
 風巾乃尾のちりく根ぬれちるこ
 先うをいこ一糸を陸こちる
 香園乃月ぬれすねのこちる
 ぬれぬるこ一麻をこちる

牡丹 雪 一 方 年 帆 巻 土 子

何乃先度うゝ家あけある
まう一厨てもとわれうゝあさ
有まもあうゝせる成まゝあ
九一一年一京さゝるゝあ
おまふそれうゝま成たゝれ
まゝまのうゝく山楸乃下
紙表臭たゝらゝに急あて
引物のまゝ乃血まゝゆを

ま ろ 月 子 年 巻 ろ 毛

ちりゝと書吹すかぬ月乃あ
庭と乃そけさかそおあひ
いれまゝとぬゝあゆゝ給ま
お川ゝうゝ申まゝあす
あ井れのあゝあい時ゝあ
大ふろはゝああゝつゝあ
まおのほゝゝとひゝあ
針れまゝゝあゝああ

平 巻 子 毛 ろ 辛

夜ぬとさういれとほつあふ
あられふくとねまももちり
そらういこのも風はつこい
かてん乃ちめをたーい
築山乃振く灯籠乃火々消る
月さきくさくやのや、き
扇乃まあるぬのあささほれ人
吹ころさけくまはれさく

子 月 巻 子 走 乃 子

あさきあさきあさきあさき
法乃大いそを焚いりそ
霞新を川ほくかゝ次乃振
細と料理乃板く巻つと
君たむあいなさきあさき
秋もんのあさきあさき

走 乃 子 年 巻 乃 子

いのかまのねげかーかろるんぬれ

諷声

こさう〜ゆ〜ま〜り〜ろえ

菰子

解憂乃性たる法はあまのう〜

土芳

茶研を振〜振〜お〜ろ〜

雪芝

新〜い〜や〜く〜月おとれ〜

牡名

あ〜ゆ〜なれと子いぬい

万年

踊る〜い〜あ〜い〜い〜も〜人〜く〜あ〜る

子

せん〜う〜ま〜ち〜さ〜い〜り〜く〜と〜あ〜う

声

よ〜は〜く〜林〜く〜さ〜い〜る〜麻〜さ〜う〜は

き

ち〜〜〜と〜ち〜さ〜い〜ろ〜さ〜ぬ

芳

い〜い〜ま〜さ〜ち〜は〜か〜う〜て〜唐〜く〜さ

年

挑灯やくと〜あ〜さ〜く〜さ〜ふ

あ

糸海く身とよまのける 袖を

声

く〜ゆ〜く〜か〜い〜ふ〜門〜乃〜スイ夏アラ青

子

辭

辭

月待ハ大ニ性ニ事ハカクニ
泣ニハカクニ他ノカクニ
出ルカクニ極ニ事ハカクニ
ニカクニカクニ事ハカクニ
ニカクニカクニ事ハカクニ
サレカクニカクニ事ハカクニ
出ルカクニカクニ事ハカクニ
カクニカクニカクニ事ハカクニ

子 声 年 月

今ハカクニカクニ事ハカクニ
カクニカクニカクニ事ハカクニ
カクニカクニカクニ事ハカクニ
カクニカクニカクニ事ハカクニ
カクニカクニカクニ事ハカクニ
カクニカクニカクニ事ハカクニ
カクニカクニカクニ事ハカクニ
カクニカクニカクニ事ハカクニ

子 声 年 月

年

年

心よらんそとれよろかゝと依母
 後之まへへ 後居ほくくし
 実る子乃次ゆへに舞りあふ
 ちあつてくくくくすすあ
 隙よりくぬるくく暗い空乃産
 あやしくあへくま乃粒ちり

子 声 是 芽 宇 ち

むしと服あやしたるは母のしと切
 衣乃ありの木たけくれ 卯
 よるれあとのなぬるうほやそ
 大ユ乃先へくくくくる子あ
 らあつてくくくくくく月乃乳
 おあつとくまもくくくれさほる

万平 楓声 雪芝 土芳 荻子 牡若

新 音 入 三 行 上 行 下 行 一 行 一 行 一 行
さ 川 入 三 行 上 行 下 行 一 行 一 行 一 行
よ 川 入 三 行 上 行 下 行 一 行 一 行 一 行
か 川 入 三 行 上 行 下 行 一 行 一 行 一 行
く 川 入 三 行 上 行 下 行 一 行 一 行 一 行
け 川 入 三 行 上 行 下 行 一 行 一 行 一 行
こ 川 入 三 行 上 行 下 行 一 行 一 行 一 行
け 川 入 三 行 上 行 下 行 一 行 一 行 一 行
こ 川 入 三 行 上 行 下 行 一 行 一 行 一 行

け 川 入 三 行 上 行 下 行 一 行 一 行 一 行
こ 川 入 三 行 上 行 下 行 一 行 一 行 一 行
け 川 入 三 行 上 行 下 行 一 行 一 行 一 行
こ 川 入 三 行 上 行 下 行 一 行 一 行 一 行
け 川 入 三 行 上 行 下 行 一 行 一 行 一 行
こ 川 入 三 行 上 行 下 行 一 行 一 行 一 行
け 川 入 三 行 上 行 下 行 一 行 一 行 一 行
こ 川 入 三 行 上 行 下 行 一 行 一 行 一 行

本ノコ、

吾るら古よ内候乃りぬふるにんうれ

萩子

移ふるはれと志ほらまれハ

土子

移くともいふく何乃とよくらん

諷志

そ川と出しく昔らあとおく

万子

みぬくふいゆるまらとまける

雪子

まきぬるひろいをらとつれ

牡子

娘乃帳子うのい半のそ

子

あさたのうちとるかひとてく

子

利カと向ハて侍一坊とを

子

代かしたるは移お金乃もの

子

ちらうとていもぬのたれくさるん月

子

さきとるは葉とていのもある

子

揺りぬくはけいなるいさてなて

子

ふじとて葉れよらとまぬい

子

五

五

高く次乃る方愛しむは乃る
ぬ二まきとてふふ花しあふ
十たお乃るまきし一草のり
尾もきりあふまきあふ
いあさひる色入ぬいあふ
入あふしあふめしあふ
いあひり一まきあふあふ
あふしあふあふあふあふ

き 子 子 子 子 子 子

照はえ乃あはしあふあふ
あふしあふあふあふあふ
いあふしあふあふあふあふ
侍はしあふあふあふあふ
いあふしあふあふあふあふ
あふしあふあふあふあふ
あふしあふあふあふあふ
あふしあふあふあふあふ
あふしあふあふあふあふ

あ 子 子 子 子 子 子

にちやちやううせいいたちひ乃ちしんをくわあひひ
いにちやけ乃うたまよねのあひる色花一さ
けまひははこか乃あひるさるあまひさ
五り乃まひあひるさるあまひさ
山乃まひあひるさるあまひさ

天保参りあひる

天保参

おゆゆしうまをれ一月の巻 遠水

ふあちううう交ふおゆゆ 天遊

きましたあひるまこあひるあひる 求古

あひるあひるあひるあひる 松嶋

あひるあひるあひるあひる 若草

あひるあひるあひるあひる 賀園

もよひ〜〜〜
あ〜〜〜
点乃鼻血也〜〜〜
よぢり〜
かろ磯乃眼〜
ふれ〜
かふ乱す脊戸や殿乃小古月
陣々服く顔ふむりせり

遊 鳥 古 名 年 鳥 遊

造代れ〜
サウれと〜
青園ち〜
秋は〜
ほろ〜
旅と〜
岸ま〜
鷗と〜

古 鳥 名 遊 鳥 古

うい向乃ささくちんれめ論語さ
あやらんよくさやうのけり
たろよく瘡瘡并もせんれ
律安しいれい貧乏いささ
妹い社会さくく生さうさ
清下根さうさといささ
たろえさくはさうとささ
地川と泥とさあれたるま

長年塙古遊方阜長

あふるれよいあふんていさ
お病と寝さうさあれん
さなほけし腹のむよれ地小細
野あう山あうさあさうさ
脊負れさまさる伝さあれん
さささうさあささささ

阜長古塙方遊

長

秋かちさむいふにさるる月えいのみ
 比取根本うしとふ 様
 焼糸乃糸く凡めかさるる人
 刻の籠たよりてうむけくあ
 絶層たよりてかむれぬくあ
 葉のさうらうかへるるさ
 遠の

代友らもうかすむらうりさる
 たりこころを病もさるを
 初うれさるあははうあうぬく
 揚糸さうぬと月夜よらう
 こころはうらつと批り舞う
 増くことあうを揚うあさては
 岸くことあるゆき表乃はと乃屋
 田まれさるうねとらういとの
 塙 古 長 久 年 越 古 塙

ちはーいーんかまへんかむらさきた
ふふやふあふふふふふふふふふ
こきんかむらさかむらさかむらさか
さしーいふくそふふふふふふ
あはけのぬくふあふふふふ
かーいーあふふふふふふふふふ
いふふふふふふふふふふふふ
うきさきふふふふふふふふふ

身遊古塙ろ良遊身

地川はせほろろろろろろろろろ
あふふふふふふふふふふふふ
ーすーいふふふふふふふふふ
たふれけいふふふふふふふふ
せたちろろろろろろろろろろ
さーいふふふふふふふふふふ
あふふふふふふふふふふふふ
うれとふふふふふふふふふふ

ろ良遊身塙古良遊ろ

蘭船こじんきやくれーくろくろく
あいさりすんくろくろくろくろく
とひくろくろくろくろくろくろく
はまれはろくろくろくろくろく
ちろくろくろくろくろくろくろく
まろくろくろくろくろくろくろく

鳥 古 遊 身 ろ 長

名月やう乃用くあるはろくろく
積り積り積り積り積り積り積り
園丸のいれれれれれれれれれれ
よむやうろくろくろくろくろく
はろくろくろくろくろくろくろく
ろくろくろくろくろくろくろく

賀 園 求 古 松 鳩 天 遊 遠 水 着 岸

海のあふふとつちをけりかた
たかまねるるく子供あはれる
神柳の葉乃おしるを日中
さしーいーいささ乃よう合
随かゝるまゝくにほ衣もほろ入
をよちの解とわく解すく
うりーい階子乃ちいれおけり
さし海のあふる乃いささうい

古 是 乃 身 場 遊 是 古

る乃葉うんいさの陸てまがくを
えーいさいのささぬあも
かまいさすに力さまいおぬる
所まーいあはほら乃ちまき
まけいさしつめさういささる
たさしらもさくまぬさすれ
あしよつちのささる乃いささ
るる海のあふーいささ

場 遊 是 古 身 乃 遊 場

まゝいぬとくぬ文乃乃照のる
情鈴とかりまきあこー路
鴻さうれ越葉枝くさうひ乃ち
いしはふ所ぢあまくと又ま
庭乃か突とるんしはのちまう火
十夜もすみて周乃あうれる
又よのちいふまれはうく
いやくさりにり乃はやく

身 身 遊 塙 古 名 身

正月に二月とよふと別れも乃
かを川乃そそへたういふい
花びををはいしとせしとすま
葉代あうれく遊或く何れ
何れ乃けひまをまふとあま何れ
けくろくあだくうりよははえ

身 身 遊 塙 古 名 身

111

何とれ少くもとまづせよ一月の山

若草

えちりくさえぬ 鶴 籠

遠水

沿槽おまゐりて海舟かきまて

天遊

ふらふら井かきおまゐる

賀園

赤丸くねらけりてあつて

松嶋

あつてつすゝ成りて

求古

飯時こゝろをわく地をゆくあふ

あ

あつてたてふ 牛 乃 井 け

身

出来かひる 嶽 乃 井 け

身

あつてあつて 峰 乃 井 け

あ

魚性場乃ちと近こふけ

古

あつてあつてあつてあつて

嶋

あつてあつてあつてあつて

身

あつてあつてあつてあつて

あ

穴あきと月夜月一々念佛
又らうそくとくうよひ年を
ともふ乃く月まらるる乃麻
強ぬし〜〜〜かほのそとす
おまきせ〜〜〜えと〜〜〜れ〜〜〜か
〜〜〜や〜〜〜文ふまお振舞
大馬乃所勝えふれ嵐と也
帆柱あ〜〜〜とほひ川〜〜〜まほ

越 忌 身 乃 古 塙 忌 越

腰丸の〜〜〜はふあ〜〜〜き乃〜〜〜
信田乃旭むり〜〜〜つ〜〜〜はす
信らと〜〜〜おれのそ祭しひ出さ
鏡ぬ〜〜〜神〜〜〜あを
おまき入〜〜〜ちハ男〜〜〜さ〜〜〜
い〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
〜〜〜ら〜〜〜乃〜〜〜け〜〜〜
田の色〜〜〜こ〜〜〜ら〜〜〜お
格乃か〜〜〜お

古 塙 忌 越 乃 身 塙 古

徒らう解と証と伝とるを出一
以りも乃るまうたをこ火と加ふ
ようちあふふふ井の町に古も後
六をかうちあうう 狼と吟ふ
そらういやたてあううと山乃あひ
今あうの住るまうりいり

場 古 池 名 年 月

茶乃酔く又時うりに月ええれ
いりちまううういんは乃むつと
はあうかきむ路飯さううく
疾うういんあうてあうと伝
本はてらあえいりちあれとゆう
いりうれういりちあれとゆう

茶 場
賀 是
遠 有
名 年
求 古
天 遊

結うたれそとつゝ人殺母と海は
三人あれと危もかゝ海
ふの仙と海まゝのつとせのれ
焼心うつゝゝゝゝゝゝゝゝ
卵みれひよまゝふりてはひひ
たむむけふい陸子をはき
望桶ともたれゝあまてけれ
二十六夜乃月を待らん

名 鳩 古 遊 ろ 年 鳩 名

何のうゝ中ゝ何ふやゝ楽むゝ
あつゝとつゝゝゝゝゝゝゝゝ
たさあそ鳥乃奴又とちうゝひ
此中まゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
味もあいやうて味はふかから
うち乃とまゝうゝゝゝゝゝ
まゝまゝいゝ極乃陽の物まゝ
傳奏ははとゝゝゝゝゝゝゝ

ろ 年 鳩 名 遊 古 年 ろ

とくえかゝるる軍とついでに
あやと〜か〜船〜船
清の舟影と留るよを合せ
流るのん〜と〜舟と〜舟
鳥柔れ〜流〜と〜舟〜後悔
夕まやん〜舟〜舟
細にける舟と〜舟と〜舟
下ふ〜と〜と〜と〜流の流

越古舟鳥古越

かたろは儀乃中〜いろうひさみ
く〜えれ〜と〜と〜と〜と
るれぬ〜と〜と〜と〜と
ふゆつ〜と〜と〜と〜と
い〜と〜と〜と〜と〜と
河〜と〜と〜と〜と〜と

越古舟鳥古越

俵沼三五号仙大尾



俳諧三五奇仙真外

夜乃雪持佛は勝とんえに危

遠水

ふれ鳥とそ縁かけられつね乃雪

求古

雪の山ゆらといらしくかくふれを

賀岡

しつとむとわぬせき乃りたれ

若阜

ほらうとれきさうこはるーが

松鳩

白雪や凡乃をりこはるかつ

天遊

えねかしくわらふふる乃とるんれ

遠の

柴暮れけしとせうけやふ乃枝

求古

あわれや月とせ乃れれ細雪

賀岡

えんちれや桂畑夕しくまき

若阜

待まこれもかおやうけのそ

松鳩

あやう〜〜とる乃あつらんやるむ

天遊

夫婦しこもしこ小春や月乃あ
 遠の
 心やしこね凡さくやぬれ月
 求古
 庭よりわきまけふ月んあめ
 加賀
 唐春乃すくすくときぬ月あか
 名早
 名月やれれしなぬまよ川向ひ
 松嶋
 ふ乃月あしきくくは明く
 天遊

嵐瑠璃之丞

天保甲辰春上梓

京二条柳馬場東へ入

若山屋茂助

大坂備後町心斎橋西へ

加賀屋信兵衛

伊及上野本町

西澤長兵衛

書

林

葉村庵
孤舟